

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：34509

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520072

研究課題名(和文) 栄西像の見直しを起点とした密教と禅 日本禅宗成立史の再検討

研究課題名(英文) Reconsideration of the history about establishment of Japanese Zen Sect; from the point of view of Yosai's Thought about Zen and esoteric Buddhism.

研究代表者

米田 真理子 (YONEDA, MARIKO)

神戸学院大学・法学部・准教授

研究者番号：00423210

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：この研究の主たる対象である栄西の著作について、大須真福寺や叡山文庫などで調査を行い、未紹介の資料は、2013年刊行の『栄西集』に収録した。中でも断簡で見つかった『改偏教主決』は新出の栄西の著作であり、調査によって、ほぼ復元することができた。その他の著作も併せて内容の分析を行い、研究基盤を構築し、栄西の密教思想の特色や事跡が明らかになってきた。

それらの著作は、2010年「栄西と中世博多展」、2012年「大須観音展」、2014年「栄西と建仁寺展」の各展覧会において、一般にも公開された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to investigate and research various articles written by Yosai. At the Eizan library and Osu Shinpukuji temple, I have investigated them. I published the articles which was not introduced. By analysis of the Yosai's text, I have cleared his thought about esoteric Buddhism and tracked his whole works. As result, ordinary people can look at the works of Yosai on exhibition at Fukuoka City Museum "Yosai and the Medieval Period of Hakata" in 2010, Nagoya City Museum "Osu Kannon Special Exhibition" in 2012 and Tokyo National Museum "Roots of Zen: Yosai and the Treasures of Kenninji" in 2014.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：栄西 密教 禅 改偏教主決

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、栄西が中国から日本に宗派としての禅宗をもたらしたとする見方が定着しており、かかる通説的理解により、栄西の2度目の入宋(1187年)は禅を将来することを目的としたものであり、栄西の思想も、それを起点に、密教から禅へ移行したとみなされてきた。さらに、そのような理解を受け、栄西研究も禅に偏って行われていたといえる。

(2) 栄西の活動については密教に焦点を当てて考察される場合もあったが、思想に関しては、禅に関わる著作の分析に集中しており、密教の著作は未紹介のものも少なくなかった。そこで、共同研究のもと、栄西の新出の著作『改偏教主決』(名古屋市真福寺蔵)を中心に調査・読解を継続し、出版に向け、準備を進めていた。

### 2. 研究の目的

(1) 栄西の思想形成に関する研究として、栄西の密教の修学と活動を資料により跡付け、禅の受容がどのように行われたのか、また、それが栄西の思想全体にどのように位置づけ得るのかを明らかにしようとした。さらに、栄西の未紹介の著作を調査・研究し、刊行することを目指した。

(2) 日本初期禅宗における密教と禅との関係について、日本の禅宗が密教的要素を取り入れて発展したことは従来指摘されてきたが、本研究では、それを栄西にまで遡り考察する点に特色を有した。栄西個人の思想において、密教を基軸に、禅をどのように受容したかを明確にし、その考察を足がかりに、新たな宗教史像を構築するための独自の視点を獲得することを目指した。

### 3. 研究の方法

#### (1) 栄西の思想形成に関する研究

文献研究と実地踏査の双方からの考察を行った。文献調査は栄西の著作を中心にを行い、実地踏査はそれらの記述を基に栄西の足取りを確認し、栄西の活動基盤と宗教的・社会的環境を検証した。栄西の密教に関わる著作の大半は、初度の入宋から2度目までの約15年間を過ごした九州で作成されたものである。当地での著作について、本文の分析によって思想的特色を把握するとともに、そこに現れた事跡の地理的な確認を通して読解を深め、栄西の当地での宗教活動を明らかにしていった。

栄西の思想を全体的に捉えるための考察を行った。2度目の入宋の出発前と在宋中に著した『隠語集』と、最晩年の『喫茶養生記』とを結び思想として、五臓論・胎内五位説に焦点を当てて考察を行った。さらに、関連する仁和寺や真福寺の聖教との関係を検証した。

(2) 日本初期禅宗における密教と禅との関係について

栄西以後の禅の受容について、寺院資料の調査・研究を継続し、特に真福寺大須文庫所蔵の聖教の考察を行った。また、禅にかかわる法語など、関係する文献の研究も行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 栄西の思想形成に関する研究

##### 栄西の著作の調査と公開

栄西の思想形成について考察するにあたり、研究基盤となる著作の調査を行った。

真福寺大須文庫において発見された、それまで知られていなかった栄西の著作について、チームを組んで調査と研究を行うこととなった。発見された著作の一つ、『改偏教主決』は、栄西存命中に書写された古写本であるが、伝来の過程で冊子の糸が切れ、ばらばらの状態で保管されてきたものであった。調査によってほぼ復元することが出来、その結果、3種の著作が2冊にまとめられたものであったことが判明した。本文の読解からは、二度の入宋の間に執筆されたものであり、九州に滞在していた栄西が、真言教主をめぐる在地の僧侶と論争をし、その内容をまとめたものであったことがわかった。栄西の密教思想の根幹を示す書であると考えられ、さらに、論争相手である在地の僧侶の著述も全文が引用されていたことから、この時代の天台密教の地方への広がりとその内実を知る手がかりとなる非常に重要な文献であるといえる。

この『改偏教主決』の発見によって、栄西の動向が明確になると同時に、この時期の栄西の他の著作についても、位置づけを見直すきっかけとなった。そこで、未紹介であった他の栄西の著作について、原本を読解し、内容の検討を行った。それらの中から、真福寺蔵『改偏教主決』・『諸秘口決』、西本願寺蔵『釈迦八相』、叡山文庫蔵『胎口決』、大谷大学蔵『法華経入真言門決』を、2013年3月刊行の『栄西集』(臨川書店)に収録した。いずれの著作も翻刻文を作成して掲載したが、原本の破損が激しいものは、読解に多大な時間を要した。また、刊行に向けた作業の途中で新たな断簡が見つかることもあり、刊行は当初計画していた時期よりも遅れた。しかし、先に出版された『中世先徳著作集』(臨川書店、2006年)と合わせ、現存する栄西の著作のほとんどが公開される運びとなった。栄西研究のための基盤は整ったといえ、今後の研究に寄与する点は少なくないと思われる。

また、これらの作業と並行して、内容の考察も行った。密教の著作の大半は九州で執筆されたものであったが、そうした活動の中で、栄西が「一門」と呼ぶ集団が生じ、そこでの弟子との関係は、二度目の入宋から帰朝した後も続けられたことが推測される。つまり、九州に滞在して、一連の著作を作成した時期

は、栄西の宗教活動の基盤形成期として捉えることが出来るのである。栄西の伝記の見直しだけでなく、帰朝後に建立された博多の聖福寺や京都の建仁寺などの在り方についても、再考の余地があることを示しているものとする。

そして、これらの新出の著作は、2010年に福岡市立博物館で開催された「栄西と中世博多展」をはじめ、2012年の名古屋市博物館での「古事記 1300年 大須観音展」や、2014年の東京国立博物館「栄西と建仁寺展」に出品された。展示およびシンポジウムや図録を通して、本研究の成果が一般に公開されたことは意義があったといえよう。

さらに、以上の研究を踏まえ、現在、共同研究として『改偏教主決』の読解を開始している。本研究の成果が、次の研究へ展開したものである。

#### 身体論からみる栄西の思想

栄西の思想は、従来は、密教から禅へ転じたと捉えられてきた。しかし、最晩年の著作である『喫茶養生記』も密教の知識に基づくものであり、そこで依拠した五臓論は、初期の著作である『隠語集』にも関係を有するものであった。したがって、栄西の密教の修学は生涯を通じて行われたとみなすことができる。『隠語集』は、二度目の入宋の前に執筆され、さらに、在宋中にも再度執筆（再治）している。すなわち、栄西は入宋して禅を学んだが、平行して密教の著作も成していたことになる。それは、栄西にとっては両立する行為であったのである。この点は重視すべきであろう。

以上を前提に、『隠語集』と『喫茶養生記』を取り上げ、両書を結びテーマとして五臓論に焦点を当て、真言密教における身体論の展開に位置付けるべく、考察を行った。このことについては、2011年に Estonia の Tallinn University で開催された、13th the European Association for Japanese Studies (EAJS) で発表した。『隠語集』は、後の立川流などにも関係する思想を基盤としており、海外の研究者からも多くの関心が寄せられた。発表がきっかけとなり、このテーマに関して、国内外でのシンポジウムなどの企画を計画することにもなった。

また、栄西のこれらの著作は、五臓論や胎内五位説の院政期から鎌倉期の展開を解明するための手がかりとなり、密教僧が禅を受容していく過程の考察にも有益であると考えられる。今後、より大きなテーマへ発展させ得る可能性を秘めたものであると確信することができた。

#### (2) 日本初期禅宗における密教と禅との関係について

栄西以後の禅の受容について、真福寺に所蔵される聖教を中心に調査してきた。やはり断簡で見つかった『禅家説』は、栄西と同時

代の能忍に関係する内容を持ち、また女性に向けて書かれた仮名法語が含まれている。本書の復元と本文の翻刻を行ってきたが、内容の分析は継続中である。また、安養寺流と呼ばれる聖一派の僧たちが作成した聖教の調査に参加して、密教僧がどのように禅を受容したかを考察している。

栄西は鎌倉後期頃より、日本の禅宗の祖や茶祖と見なされるようになる。禅が社会に浸透していく中で、栄西その人に対する評価も徐々に変化し、新たな伝承が生じていったものと考えられる。

そこで、この時期に成立した、禅に関わる文学的な作品を取り上げ、栄西像が形成された背景を考察した。具体的には、天理図書館蔵・狩野文庫蔵『聖財集』、金剛寺蔵『憂喜餘の友』、『五山詩習作』、真福寺蔵『禅家説』、天理図書館蔵『妙貞問答』などの調査・研究を行った。これらは、禅の社会への浸透を示す資料であるといえ、こうした作品が生み出された時代に、栄西への評価も禅とより強く結びついていったのである。栄西に対するかかるイメージは、現代に到るまで影響力を持ち続け、そのような中で、たとえば、栄西の密教に関わる著作は忘れられていったのである。すなわち、禅が社会へ定着したことで、栄西における禅に対する評価は高まり、一方で、栄西に備わっていた密教に関する部分は見えにくくなっていったといえる。それは、日本の禅宗の歴史に対する認識にも少なからぬ影響を及ぼしていたと考えられるのである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計10件)

米田真理子、真福寺大須文庫蔵『改偏教主決』にみる栄西の九州での活動、栄西と中世博多展図録、査読無、2010、11-16

米田真理子、栄西の密教思想形成と入宋九州時代の活動を中心に、中世文学と寺院資料・聖教、査読無、2010、558-575

米田真理子、寺院資料調査研究と中世文学研究 金剛寺調査を中心に、中世文学、査読有、56号、2011、26-32

米田真理子、『聖財集』の写本、無住 研究と資料、査読無、2011、322-332

米田真理子、末木文美士、牧野敦司、和田有希子、翻刻「改偏教主決・重修教主決」、中世禅籍叢刊栄西集、査読無、2013、379-429

米田真理子、翻刻「結縁一遍集」、中世禅籍叢刊栄西集、査読無、2013、433-439

米田真理子、翻刻「胎口決」、中世禅籍叢刊栄西集、査読無、2013、443-453

米田真理子、翻刻「釈迦八相」、中世禅籍叢刊栄西集、査読無、2013、457-485

米田真理子、解題「結縁一遍集」、中世禅籍叢刊栄西集、査読無、2013、529-535  
米田真理子、文学史からみた『妙貞問答』、妙貞問答を読む ハピアンの仏教批判、査読無、2014、459-473

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：

〔学会発表〕(計4件)

米田真理子、金剛寺調査と『徒然草』からの問題提起、中世文学会、2010年5月29日、法政大学(東京)

米田真理子、『聖財集』の写本、名古屋大学文学研究科・文学部研究集会、2010年12月23日、名古屋大学(愛知県)

米田真理子、成熟する身体 密教僧栄西の五位論、13th the European Association for Japanese Studies、2011年8月25日、Tallinn University (Estonia)

米田真理子、栄西・無住の著作について、公開シンポジウム「大須文庫・秘密の扉を開く」、2012年12月16日、名古屋市博物館(愛知県)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

米田 真理子 (YONEDA, Mariko)  
神戸学院大学・法学部・准教授  
研究者番号：00423210

(2)研究分担者

( )

研究者番号：